

第2章 湖岸植生帯の緊急保全対策の考え方

2.1 緊急保全対策検討の背景

(1) 湖岸植生帯減退の状況

西浦では昭和47年から平成14年の30年間で、沈水植物はほぼ消滅し、浮葉植物は約30%、抽水植物は約50%までに減少している。

アサザは夏に湖面を黄色く彩り、霞ヶ浦ではよく見られる植物だったが、絶滅危惧Ⅱ類^{*1}に指定され、平成12年には、1,000㎡を超える群落は、霞ヶ浦では2地区[麻生、崎浜(根田)]しかなく、大幅に減少している。

このように、霞ヶ浦の湖岸植生帯が減退しているため、早急な保全対策が求められた。

^{*1} 平成19年8月3日に環境省より発表された新しいレッドリストでは、それまでの絶滅危惧Ⅱ類から準絶滅危惧Ⅰ類にランクが下げられた。

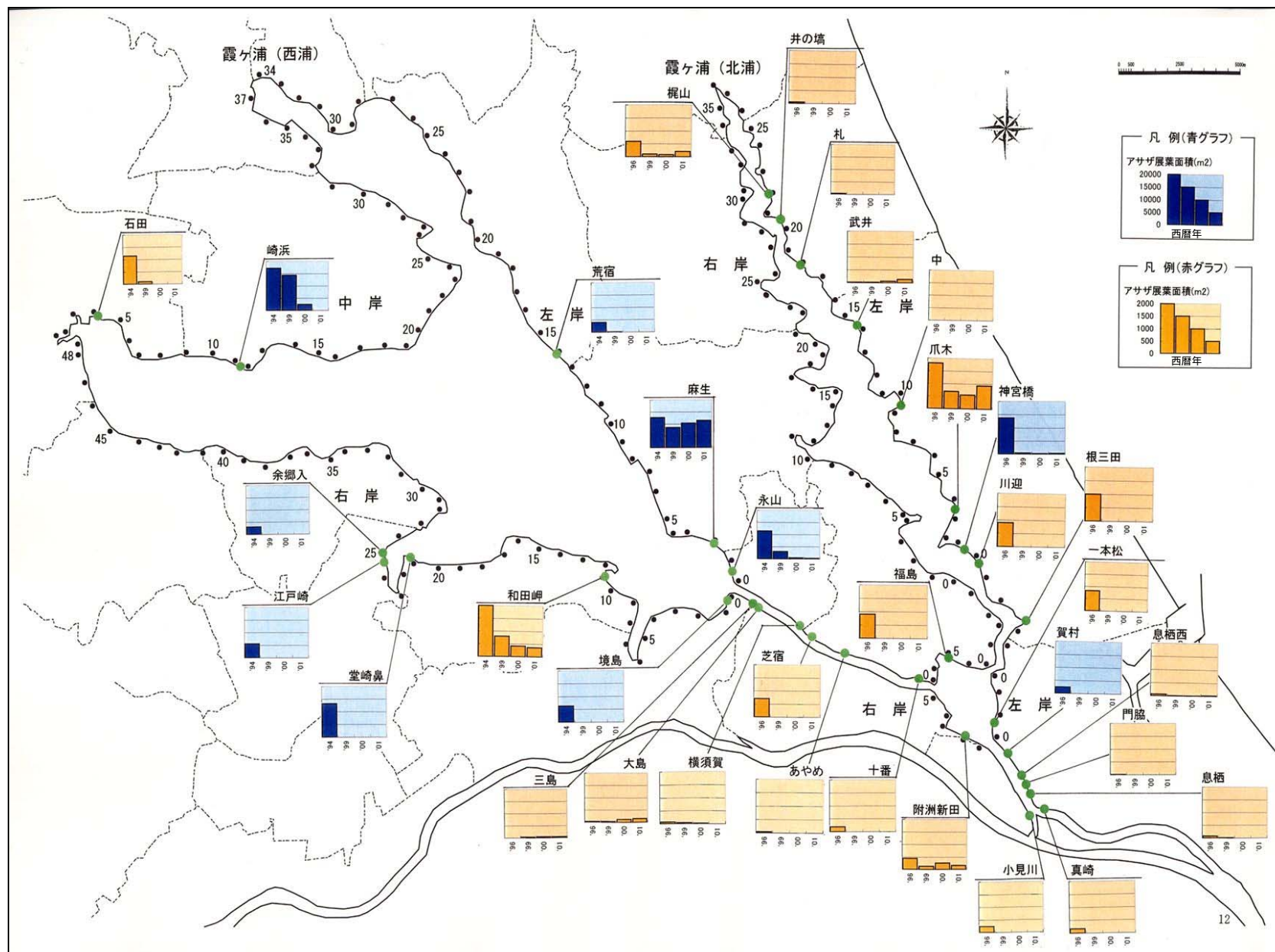
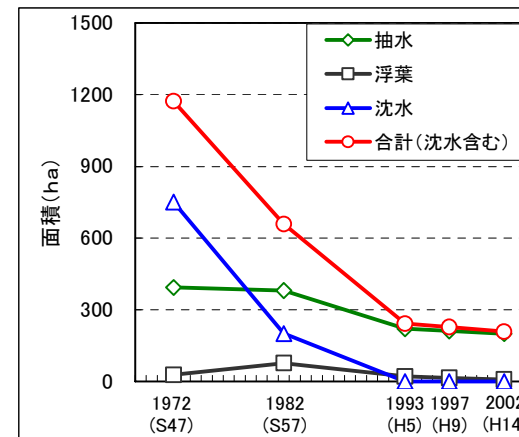


図2-1. アサザ展葉面積の推移

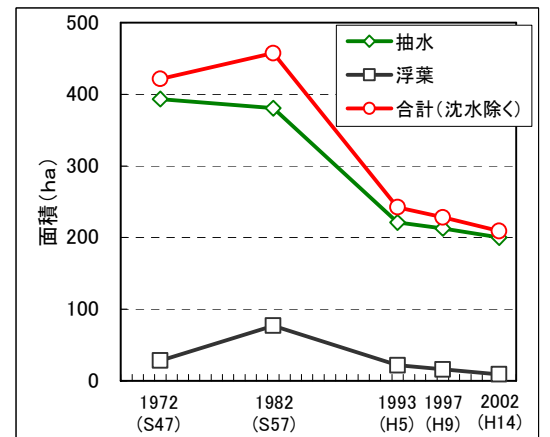
出典：「霞ヶ浦水際線保全検討業務」平成13年3月，霞ヶ浦工事事務所
「霞ヶ浦水際保全検討（その2）業務」平成14年3月，霞ヶ浦工事事務所

合計(西浦+北浦)(沈水植物を含む面積)



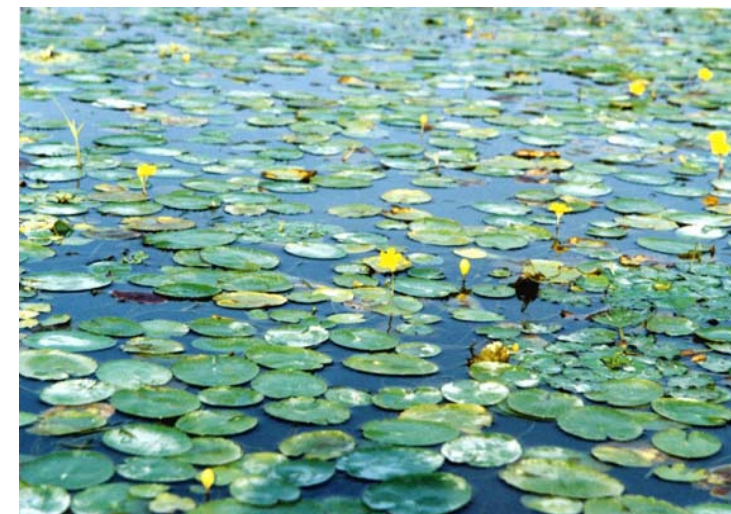
S47年、S57年はH12年時点の湖岸堤等の
構造物部分を控除した植生面積

合計(西浦+北浦)(沈水植物を除いた面積)



S47年、S57年はH12年時点の湖岸堤等の
構造物部分を控除した植生面積

図2-2. 霞ヶ浦湖岸植生面積の推移



アサザ



ヨシ

崎浜は現在の根田、
江戸崎は現在の鳩崎

(2) 湖岸植生帯減退の要因

湖岸植生帯の減退要因について、様々な面から実証データによって検証し、その仮説フローを作成した。緊急対策方法を検討するに当たっては、この仮説フローにしたがい、総合的な判断によって、各地区の特性にあった対策工法を設定した。

- ◆ 湖岸植生帯の減退要因には、水質、波浪、水位、底質、地下水、湖岸流などの物理的要因と富栄養化の進行、湖岸堤築造（地下水の遮断、湖岸流の変化を含む）および常陸川水門による水位操作、湖底からの砂利採取、ゴミのドリフトなどの直接的要因が考えられる。
- ◆ 減退要因の分析の結果から、湖岸の侵食、波浪、水位の影響が大きいことがわかり、植生生育場の整備、波浪の消波などの保全対策が有効であると考えられる。
しかしながら、減退要因の究明は未だ不明な点が多く、今後も検討が必要である。

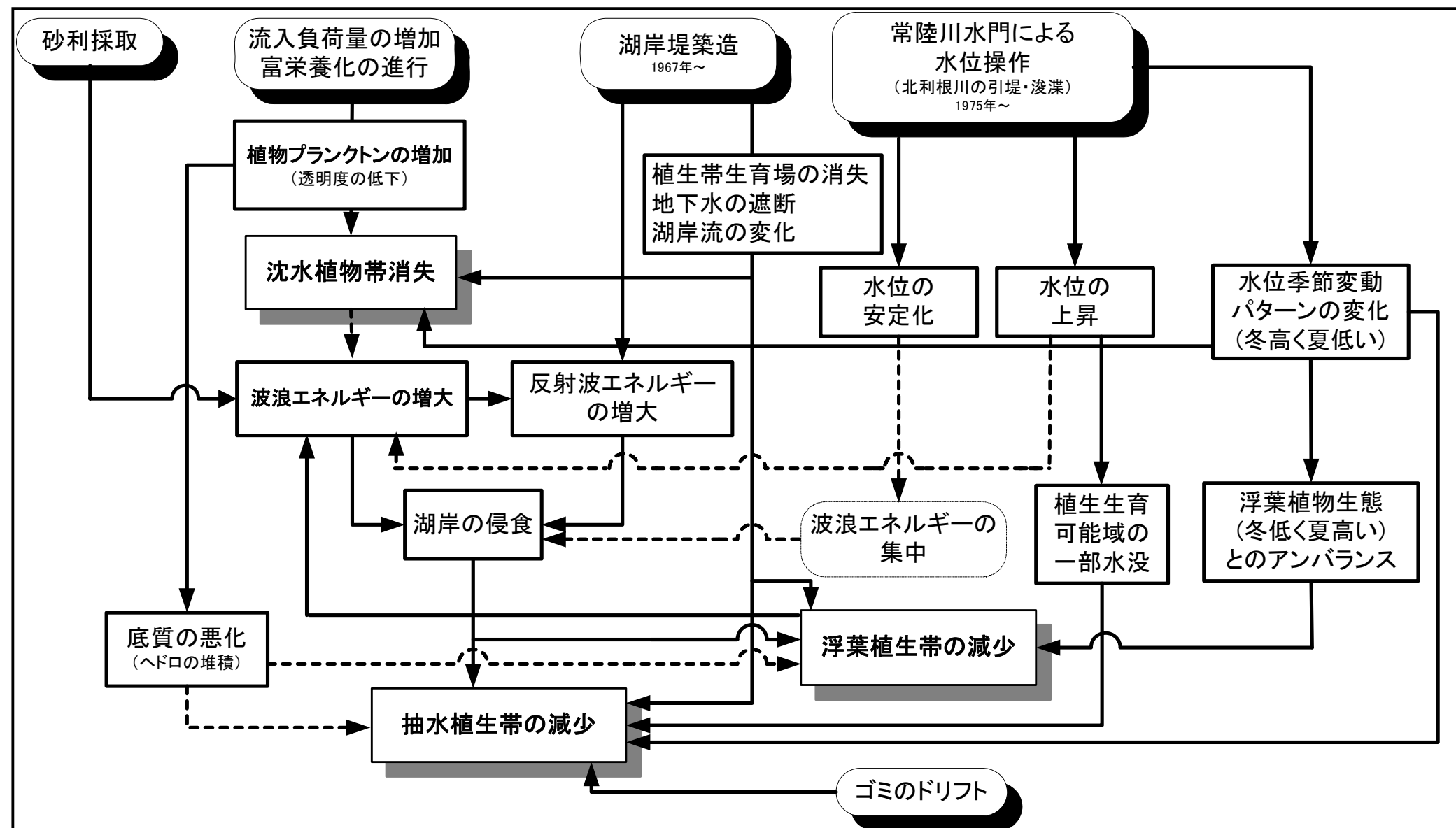


図 2 - 3 . 霞ヶ浦湖岸植生の衰退要因の仮説フロー

出典：「第 2 回 霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会」資料 5 - 1 (P4)